

先進地紹介

福島県須賀川市の「特撮文化」と「俳句文化」のまちづくり ～都市再生整備計画を活用した須賀川市南部地区～

小美玉市都市建設部都市整備課 主任 重藤 智史
主任 廣山 亮佑

先進地視察の概要

都市計画行政及び景観形成事業推進に関する知識の向上を図るため、令和5年11月2日に茨城県都市計画協会が主催して先進地視察を行いました。今回は福島県須賀川市へ行き、須賀川市や都市再生推進法人である(株)テダソチマの皆様よりご説明やご案内をいただきました。



福島県須賀川市

須賀川市は、福島県のほぼ中央に位置し、国道4号、福島空港など、高速交通条件に恵まれた人口約73,000人の市です。

市の中心市街地では、県道古殿須賀川線を境に2つの文化でまちづくりを行っています。北部地区では、円谷英二が須賀川市出身であることからウルトラヒーローたちの「特撮文化」のまちづくり、南部地区では、松尾芭蕉が奥の細道の道中、8日間逗留した歴史から「俳句文化」によるまちづくりが進められています。今回の先進地視察では主に南部地区の取り組みの視察を行いました。

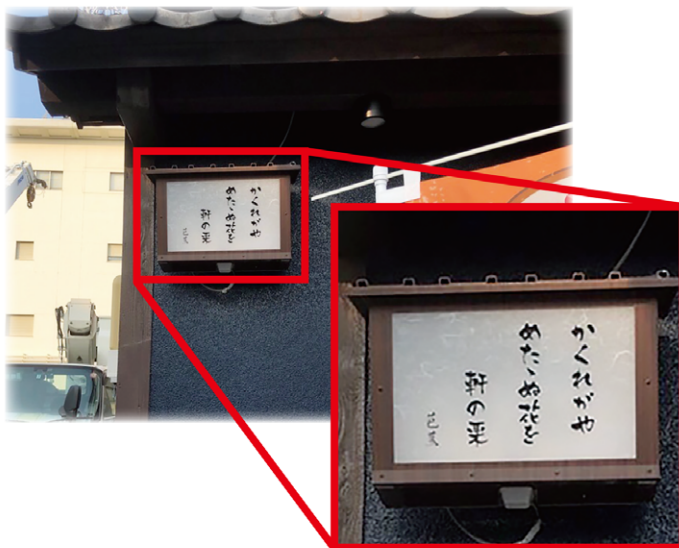


視察テーマ

1. 須賀川市南部地区における都市再生整備計画を活用した事業の経緯と取り組み

須賀川市南部地区は、奥州街道屈指の宿場町として繁栄してきた地区ですが、郊外化と震災により、空き家・空き地が増加し、その利活用と賑わいの創出が課題となっていました。そこで都市再生整備計画を活用し、風流のはじめ館（地域交流・観光交流センター）の整備や統一的な道路整備、趣あるまちなみとなるよう民家への軒行灯の整備等を実施し、歴史を生かしたまちづくりに取り組んできました。

【軒行灯の整備】



【回遊性を高めるブロック舗装整備】

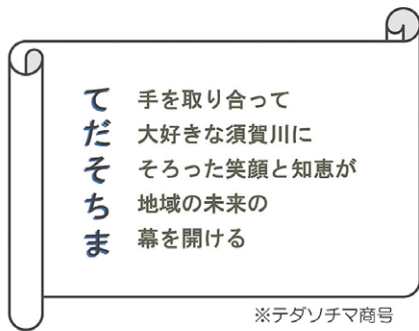


2. 官民連携のまちづくりの取り組み (エリアプラットフォームによる展開)

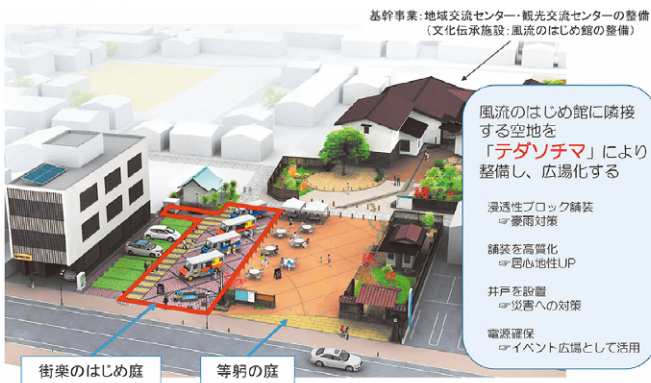
行政が進めてきた「まちづくり」から、民間が携わる「まちそだて」に深化させるため、令和元年8月に設立された都市再生推進法人「(株)テダソチマ」と市が連携し、まちづくりに取り組んでいます。一例として、まちなかウォークラブル推進事業により、テダソチマが事業者として風流のはじめ館脇の空地の広場整備を行い、賑わい空間を創出しました。

また、現在は須賀川市南部地区エリアプラットフォームを発足し、地域の10年後のあるべき姿を見据えて、持続可能なまちづくりの方針である未来ビジョン「みちしるべ」を令和4年3月に策定しており、民が考え、民が主体となったまちそだてを進めています。

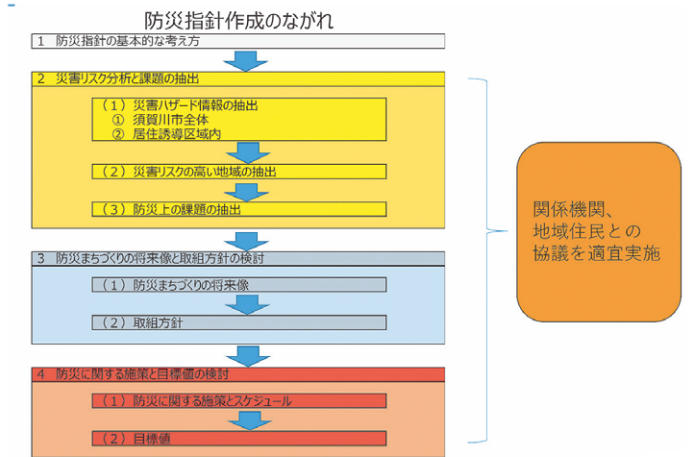
【テダソチマの語源 ※逆から読むと・・・】



【風流のはじめ館脇の広場整備】



3. 須賀川市立地適正化計画における防災指針の検討 ～頻発化・激甚化する災害に備えるために～



須賀川市でも令和元年東日本台風の被害が発生し、全壊155棟・半壊675棟・一部損壊232棟という甚大な被害に見舞われました。防災指針の中で居住誘導区域内の浸水想定区域等については、ハード対策として関係機関と連携のもと、河川改修、内水排水対策を行い、ソフト対策としては、早期避難のための対策及び避難行動要支援者に対する避難対策を行ったうえで、居住誘導区域の区域変更は行わないこととしています。また、居住誘導区域内の土砂災害警戒区域及び特別警戒区域については、居住誘導区域から除外することとしています。

■おわりに

今回の先進地視察をとおして、都市再生整備計画を活用したまちづくりや都市再生推進法人と市とが連携して取り組んだまちづくりに触れることができ、非常に充実した研修となりました。ご協力いただいた須賀川市や(株)テダソチマの皆様、主催いただいた茨城県都市計画協会の皆様に深く感謝申し上げます。

